



千八百七十三年間兵庫大阪貿易新聞



3408



114
A 3142
4



千八百七十三年間兵庫大坂貿易報文

千八百七十四年六月三十日

兵庫 英國領事館

我レ謹テ千八百七十三年間ノ我カ地方貿易商
船出入等ノ報文ヲ閣下ニ呈ス右報文ハ同年十
二月三十一日ニ至ル迄テノモノニシテ其目錄
ハ則チ左ノ如シ

第一 輸入品

第二 輸出品

第三 兵庫商船出入ノ報文

飛騨局

大藏省

大正十一年四月
隈侯爵贈

第四 大改高船出入ノ報文

第五 兵庫及ヒ大改ニテ収取セシ税銀

第六 兵庫及ヒ大改ノ外國居留人

右ノ諸表ハ稍錯乱シタル地方税關ノ報聞ヨリ
算輯シタルモノナリ

税關ニ於テ外國人ヲ使用スト雖此是迄テ夫ガ
タノニ右局ノ事業ヲ進歩セシメザリシ事
且外國人ヲ使用セルヨリ期望シ得可キ助ケハ
若シ之レアリタルニモセヨ今ハ大ニ減却シタ
ル事ハ余ガ陳述セザルヲ得ザル所ナリ

輸入

木綿糸ハ此市場ニ輸入サレタルモノ三種アリ
第一号（ミールトウスト）精品則チ三十番ヨリ
四拾貳番迄テ而シテ第二号及ヒ第三号疎品第
二号ハ貳拾八番ヨリ三十番而シテ第三号ハ
拾六番ヨリ貳拾四番迄テ○第一号ハ更ラニ捌
口ウチナカリキ然シナガラ此年ノ間第三号ノ不足
ナリシニ因リ多分ニ輸入サレタル第二号ノ賣
捌方ハ甚々著シク採取リタリ
以年ノ始メ第三号ノ三ピコル入リノ捆ハ百拾

五弗^ニ賣レタリ四月及ヒ五月ニ於テハ百貳拾
三弗^ニ賣レタリ夏季ノ間其價ハ源價ニ下落シ
タリ然シナガラ十月ノ間ニ再ヒ騰貴シタリ
第二号ハ百三拾五弗程ノ高價ニ賣レタリ然シ
ナカラ此年ノ末ニ至リテ其價ハ百貳拾四弗ニ
下落シタリ

四月中ハ賣捌方最モ盛ニナリキ(四百九拾八捆
而シテ九月中ハ最モ僅カナリキ(百三拾捆)
〔金中〕ハ其價貴カラスト虽ヘトモ此貨物ノ取引
ハ昨年ニ比スレバ繁昌ナリキ七磅ノ生金巾ハ

貳弗拾貳錢乃至貳弗三拾貳錢ニ賣レタリ而シ
テ平均相場ハ貳弗貳拾五錢ニテアリタルコト
、云ハレ得ルナリ

八磅四分一ヨリ八磅二分一迄ノ品ハ貳弗六拾
一錢ノ平均相場ナリキ是レ貳弗五拾錢ノ時價
去ル十二月中ニ貳弗八拾錢ニ騰貴シタルヲ以
テナリ九磅ハ少量ニテハ貳弗八拾錢乃至貳弗
九拾五錢ニ賣レタリ

黒オルレアンスハ一反ニ付キ六弗五拾錢ヨリ
ハ絶ヘテ下落セザリキ此年ノ前月ノ間ニ拂

ハレタル最モ昂キ價ハ八弗五拾錢ニテアリタ
リ

〔黒剪絨〕ハ一月中一反ニ付キ十四弗ニ賣レタリ
シガ漸々下落シテ三月ニハ九弗ニ下落シタリ
而シテ其後ハ騰貴ノ徴更ラニ見ヘザリキ斯ク
アリタリト虽ヘトモ盛ニニ賣捌カレタリ十一
月中ヲ最モ多數トス〔四千百拾反〕七月中ヲ最モ
少數トス〔三百反〕

〔吳呂〕ハ三月中盛ニニ賣レタリ七百五拾反其價
ハ前ヘノ年々ノ價ト大ヒナル差別ナシ則チ左

ノ如シ

緋色 拾七弗乃至拾八弗五拾錢

黒色 拾四弗乃至拾六弗

雜色 拾五弗乃至拾七弗

〔ムーズリー、インド、ライ〕ハ此年間中平ノ價ニ
賣レタリ

無地 幅三拾乃至三拾一インチノ品一千

八百七十二年ニ於テハ其平均相場

一碼ニ付キ二拾二錢ナリ

無地 幅四拾四乃至四拾五インチノ品一

千八百七十二年ニ於テハ其平均相場一碼ニ付キ三拾二錢ナリ

花紋

幅三拾乃至三拾一インチノ品一千八百七十二年ニ於テハ其平均相場一碼ニ付キ三拾五錢ナリ

無地

幅三拾乃至三拾一インチノ品一千八百七十三年ニ於テハ其平均相場一碼ニ付キ十八錢ナリ

無地

幅四十四乃至四十五インチノ品一千八百七十三年ニ於テハ其平均相場一碼ニ付キ十八錢ナリ

場一碼ニ付キ二拾三錢ナリ

花紋

幅三拾乃至三拾一インチノ品一千八百七十三年ニ於テハ其平均相場一碼ニ付キ二拾九錢ナリ

デベツトハ買手次第ニ増加シ其平均相場ハ一碼ニ付キ二拾六錢ナリ紅色ハ一反ニ付キ八弗乃至拾弗ニシテ他色ハ一反ニ付キ六弗乃至九弗ナリ

羅紗

ハパイロット、プレシデント、及ヒシール、スキ

飛 驒 局

飛 驒 局

ノ三種ナリ右ノ内シール、スキニハ始メテ輸

入サレタルモノナリ

黒羅紗ハ一月中一碼ニ付キ二弗ナリシガ夏季ノ間一弗二十五錢ニ下落シタリ平均相場ハ一千八百七十三年中一弗五拾三錢ナリ即チ一千八百七十二年ヨリハ二十五錢少ナキナリ十二月中ノ賣捌高ハ二千零五拾三及ニ及ビタリ

唐綫ハ其取引五月中ニ抄取りタリ六月中ハ其價三弗十五錢ヨリ三弗八拾錢ニ至ルマテ差ヒタリ是レ仕入レ少クシテ其捌口ノ多キニ因テナリ七月八月ノ中ハ更ラニ賣レザリキ然シナ

ガウ其後ノ月々ノ間ハ再ヒ著シキ取引アリタリ十二月ノ中ニ賣リタル高ハ九千四百及ニ及ヒタリ一千八百七十三年ニ於テノ平均相場ハ三弗二十四錢及ヒ二弗七十一錢ナリキ而シテ一千八百七十二年ニ於テハ其平均相場三弗十四錢及ヒ二弗五拾一錢ナリキ

鐵ハ一ピコルニ付キ四弗二十五錢ヨリ五弗ニマデ差ヒタリ釘ヲ製スルタメノ鐵條ハ以年ノ末ニ至リテ一ピコルニ付キ三弗ヨリ五弗ニマテ騰貴シタリ箍鐵ハ五弗七十五錢ヨリ四弗七

十五錢ニ下リタリ

鐵鐵葉及ヒ亞鉛ハ前年ニ比スレハ更ラニ好キ
平均相場ヲ持チタリ則チ一千八百七十三年ニ
於テハ六弗七拾五錢九弗七十九錢及ヒ八弗四
十六錢ナレ共一千八百七十二年ニ於テハ五弗
七十五錢七弗二十九錢及ヒ八弗ナリキ

砂糖ハ薩摩ニ於テ産出セシトハ虽ハトモ盛ニ
ニ輸入サレタリ而シテ取分ケ支那ノ南地及ヒ
チルモサヨリ輸入サレタリ廣東ヨリ来タルモ
ノト稱フル最モ高價ノ物(白)ハ極品ノ口一ピコ

ルニ付キ八弗三十一錢ノ平均相場次品ノ口一
ピコルニ付キ七弗三十九錢ノ平均相場ニ賣
タリ五月六月七月ノ間ニ輸入サレタル高ハ一
萬八千百九十八ピコルニ及ビタリキ

生綿ハ取引盛ニニ増益シタリ是レ本國産ノ物
ノ半バ出来損シタルノ故ニ因テナリ而シテ其
平均相場ハ一ピコルニ付キ十六弗九錢ナリキ
石炭油ハ其賣レ方次第ニ増加セシテ以テ盛ニ
ニ輸入サレタリ然ルニ其分量餘リニ度ニ過キ
タレバ夫迄テ五ガルロニ宛入リタルニ罐ノ時

番 詰 居
大 痛 省
價五弗乃至六弗ナリシ處此年ノ始メニ拾テ俄
カニ三弗二十五錢ニ下落シタリ之レニ因テ相
庭師ハ大ヒニ損毛ヲ受ケタリ

輸出

茶左ニ記セル比較表ハ前二年間ノ時價ヲ示ス
モノナリ

一千八百七十年 一千八百七十三年

並品ノ上、一ピコルニ付キ	二拾弗六拾錢	二拾三弗七拾錢
中品ノ次、全	二拾九弗十錢	二拾七弗九拾錢
中品ノ上、全	三拾弗拾九錢	三拾弗五錢

上品ノ次、全

三拾九弗六錢

三拾弗。

上品ノ上、全

四拾弗。

四拾六弗七拾五錢

精品ノ次、全

五拾弗九拾錢

五拾二弗八拾三錢

精品ノ上、全

五拾弗二拾錢

五拾七弗拾四錢

故茶ノ取引ハ不景氣ニシテ四月ノ始メニ於テ
止ミタリ是レ昂價ノ故ヲ以テナリ

新鮮ニシテ且ツ精美ナル製茶ノ最初ノ載貨ハ
格外ノ價ナリトハ雖ヘトモ五月ノ中程ニ始マ
リタリ然シナカラ其價ハ終ニ頗ル相當ノモノ
トナリタリ然レトモ十一月ニ於テ又騰貴シタ

リ此月ニハ五千五百ピコルヲ輸出シタリ

去ル十二月中亞墨利加ノ茶税此レハ廿五錢ヨ

リ拾五錢ニ減セラレ而シテ一千八百七十三年

ニ止メラレタルモノナリハ一千八百七十四年

一月三十一日ヨリ再ヒ取立テラル可キ趣ノ風

聞ノ達シタルニ因テ輸出者ハ日本ニ於テ平常

ヨリ高キ價ヲ拂ヒタリシニ是レハ不幸ニシテ

輸出者ノ大損毛トナリタリ

縮及ヒ蠶卵ノ取引ハ通年不景氣ナリキ

銅ハ以前一ピコルニ付キ拾三弗又ハ更ラニ廉

價ニテ買求ムルヲ得タルが去年ノ間拾九弗

三拾四錢ノ平均相場ニ騰貴シタリ以相場遠ニ

ハ大ヒニ買込ニノ勢ヲ挫キタリ然シトカラニ

月三月及ヒ五月ノ間ニ凡ソ六千ピコルヲ船載

ミシタリ

青銅ハ古寺ノ梵鐘銃砲佛像等ニシテ以諸品ハ

此年ノ始メノ中キ重モトル輸出品トナリタリ

然シトカラ右ハ漸々ニ減少シタリ而シテ自然

速カニ止ムニ至ル可シ其平均相場ハ一ピコル

ニ付キ十六弗拾五錢ナリキ

〔煙草〕ノ取引ハ昨年間撈取リタリ一ピコルニ付
キ平均相場五弗二拾七銭ニテアリタリ則チ一
千八百七十二年間ノ平均相場ヨリモ少キ一六
拾五銭ナリキ

〔木蠟〕ハ一千八百七十二年ヨリハ一ピコルニ付
キ廉ナルコト四弗ナリキ然シテカラ本國ノ價
ノ故ニ因テ盛ニナル取引ハ做サレザリキ輸出
ハ二月及ヒ三月ニ於テ一千ピコルニ共算サレ
タリ然シテカラ六月ニ於テ止ミタリ

〔樟腦〕ハ一ピコルニ付キ拾五弗七拾銭ノ平均相
場ナリキ故ニ一千八百七十三年ニ於テハ一ピ
コルニ付キ二拾銭ノ騰貴ナリ因テ其買入レハ
前年ヨリモ劣リタリキ

〔米及ヒ小麥〕ハ從來政府ニテ獨リ輸出ノ權ヲ專
ラニセシ處此年ノ後半年間終ヒニ人民ヲシ
テ自在ニ之ヲ輸出セシムルコトヲ許ルシタリ
〔船舶〕一千八百七十三年間兵庫大阪兩港ニ出入
シタル外國船舶ハ噸數五拾七萬三千百六拾九
噸艘數五百四拾艘ノ惣計ナリ則チ前年ヨリモ
噸數二萬八千二百七十六噸艘數三十九艘ノ減

少ヲ示セリ是レハ一千八百七十二年政府ニテ
 外國蒸氣船ヲ催ヒ多分ノ米ヲ輸出シタル事情
 ニ重モニ關係シ又一ニハ橫濱及ヒ兵庫ヲ指シ
 テ来リタル船隻往々橫濱ニ止マリテ其貨物ヲ
 バ亞墨利加ノ大飛脚船ニテ當所ニ廻ハシ而シ
 テ又右飛脚船ヲ以テ出港貨物ノ一部分ヲ當港
 ヲリ受取りタルニ因テナリ

卷末ノ表中ニ揭示セル如ク外國并ニ英國ノ船
 隻ノ此港ニ出入シタル數ノ多キ様ニ見ユルハ
 又橫濱及ヒ上海ノ間ニ亞墨利加郵船ノ每週常

ニ往復スルノ故ニ因テ然ルヲ知ル可シ

河蒸氣船ハ尚ホ兵庫ト大阪トノ間ニ頻々交通
 ヲ做スナリ而シテ右河蒸氣船ハ若シモ鐵道寮
 ニテ現今ノ高キ運賃ヲ引下ケナサバルトキハ
 故障ナク引續キテ其交通ヲ做ス可シ蒸氣車ノ
 運賃ハ三等客ニテ四拾錢ナリトス則チ河蒸氣
 船ニテ拂フ可キ平均運賃ノ二倍ナリ

外國ノ船將及ヒ機關師ヲ乘込マセタル日本人
 所有ノ蒸氣船ニテ現今内海諸港ト大阪兵庫及
 ヒ橫濱東京ノ間ニ正シキ交通ヲ開キタリ右蒸

氣船ハ次第ニ沿海貿易ノ權ヲ獨リ專ラニセシ
トスル勢アルナリ

地方ニ關係シタル事件ノ報知

兵庫〇市中會館ニ用ユル一字ノ羨屋及ヒ諸ノ
後所并ニ巡查屯所小キ獄舎及ヒ水龍車浴水車
ヲ入レ置ク可キ永久ノ小舎ヲ外國人居留地ノ
中央ニ建築シタリ

居留地ノタメ瀑布ヨリ清水ヲ引ニハ此仕事
ヲシテ或ル日本人ノ不相當ナル圖謀ニ歸セシ
ムルコトヲ我輩ノ甘ニスルニ非レハ鎮台ヨリ

助ケヲ得ル能ハサルニ因リ五個ノ蓋ヒアル井
戸ヲ居留地ノ最モ便利ナル場所ニ於テ掘ル可
キ一ニ決定シタリ而シテ此井戸ハ意ノ如ク成
功シタリ而シテ何レノモノモ同時ニ働ラケル
二個ノ有カナル水龍車ニ差支ハナク水ヲ供シ
得ルナリ

樹木并ニ草ハ大ヒニ我カ海岸ノ景色ニ佳趣ヲ
添ヘタリ且ツ我ガ狭小ニシテ羨好ナル遊園ハ
即今十分ニ齊整セリ

公園ハ又疾クニモ出来シタル筈ノ処日本人ハ

持前ノ固執性ヲ以テ百方手段ヲ尽シ當初ニ結
ヒタル約束ヲ踐行ス可キ責ヲ終ヒニ免カレン
ト欲スルガ故ニ今ニ出来セサルナリ然シナカ
ラ是レハ先年中當港ノ或ル限界ノ内ニ日本人
同様土地ヲ貸渡タス可キ外國人ノ權利ニ付キ
テノ約定ヲ日本政府ニテ是迄テ多年間首尾能
ク廢紙ノ如ク取扱ヒタルヲ考フルトキハ怪
ムニ足ラサルナリ

市中會議員ハ一英國會社ノ機械ヨリ瓦斯ヲ引
キテ居留地ヲ照ラヌ可キヲ約定シタリ右機

械ハ急速取設ケラル可シ

去年間或ル美麗ナル住屋并ニ倉庫ノ取建テラ
レタルモノアリ而シテ造營ハ尙外國居留地ニ

引續ケリ

日本市街ノ急ニ増益シタルコトハ驚ク可キ程
ナリ好ク水吐キヲ附ケ且ツ廣キ街衢ヲ直角ニ
設ケ此地神戸ニ屬シタル部分ヲ大ナル街區ニ
分チタリ此處ニハ數多ノ外國風ノ家屋ヲ建築
シタリ

市街及ヒ居留地ノ後ニ在ル山ノ斜坡上ニ又タ

賤價ヲ主意トシテ較良好ナル道路ヲ造リタリ
 然レ共此道ハ絶ヘス修繕ヲ要ス可キヲ以テ畢
 竟費用ノ多キモノニ付ク可シ然シナカラ右ハ
 日本政府ニテ施行セル作事ノ規則ナリト見ヘ
 タリ但外國人ノ手藝ト示教トヲ受クル所ノ作
 事ハ此限ニ非ラサルノミ

佛國ノ作事方ノ監督ニテ一千噸積込テノ船舶
 ヲ修造ス可キ造船所ヲ日本政府ノタメニ建造
 セリ其場所ハ神戸港ノ西側ニテ已テニ稍久シ
 キ間盛ニニ作工ヲ做セル鑄造所ニ極メテ接近

セリ

通用金等

大阪ノ造幣寮ハ各局トモ至近ノ器械類ヲ十分
 ニ齊備シタリ而シテ其寮ノ所用ニ供スル硫酸
 硝酸燒返石炭及ヒ瓦斯ノ製造等ヲモ盛ニニ營
 業セリ

一千八百七十三年一月一日ヨリ十二月三十一

日迄デニ造リタル貨幣ノ數ハ左ノ如シ

名稱	枚數	弗 ^{トタル} 直シタル價
金貨	五五二七六〇	一九三八五〇四三

銀貨

二〇、三七六九五

二七、五九三二五

銅貨

一三〇、五三四〇

一三〇、五三

總計 二三一、五七四二一弗ナリ

去年ノ間造幣寮ニ輸入シタル金銀地金ノ總數ハ左ノ如シ

金

九一四、七二八五円

銀

三六、八六七、一〇二

銅ヲ貨幣ニ鑄立テル様ニ製法スル所ノ工場ハ餘程以前ヨリ取掛リタルナリナルガ銅貨ノ鑄造ハ唯去ル十二月中ニ正シク始メラレタリ

銅貨ノ鑄造所ハ二三月以前ニ落成シタリ而シテ造幣寮ニ附ケラレタリ右鑄造所ハ石ノ地脚ノ上ニ赤ト白トノ煉火石ヲ以テ築上ケタルモノニシテ長サ四百四十尺アリ其全躰甚々堅牢ニシテ且ツ華麗ナリ此鑄造所ニ据附ケタル機械ハ毎年一億四千枚ノ銅貨ヲ鑄立テ得ベキモノナリ
左ニ記載セル日本銅ノ分析ハ造幣寮附ノ化學家兼鍛金師ナルダブリュトゴラント氏ノ實驗セル所ニシテ有益ノモノナル可シ其説ニ曰ク

日本銅ノ見本ハ之ヲ検査シタルニ何レモ珍ラ
 シク安地^{アンチモ}ニ^モ含ムコト無ク且ツ又大抵礬石ノ
 有害ナル分量ヲ含ムコト無キナリ然レモカラ
 一ツノ見本ハ百ニ付キ礬石ノ一、五九ヲ含ミタリ
 此ノ如キ礬石ノ分量ヲ含ミタル銅ハ青銅及ヒ
 其他ノ夾雜物ヲ造ルニハ全ク適當セサルモノ
 トス何トナレハ右ノ物ハ粘且硬ナル質ヲ要ス
 ルモノナレバナリ他ノ見本ニハ百ニ付キ鉛ノ
 一、三八四ヲ含ミタルモノモアリ又極メテ精煉
 ヲ經サレ日本生銅ノ或ル種類ハ通例畧圓形ノ

板ニ造ラレ其形歐羅巴ノ口セツテ銅ニ似タリ右
 ノ生銅ハ時トシテハ非常ニ不純粹ニシテ或ル
 場合ニ於テハ之レヲ取扱フニ尋常精煉法ニ
 モ改正ヲ加フルコトヲ要スル程ニ多分ノ鐵ヲ
 含ムナリ余ガ目今検査スル所ニ拠レバ日本ノ
 銅ハ若シ之ヲ適宜ノ溶炉ニテ精煉スルトキハ
 純銅ヲ要スル所ノ諸場合ニ於テ好ク之ヲ使用
 シ得ベキ性質ヲ一般ニ具フルヲ見出シタリ
 然リト虽ヘトモ時々其中ニ含ム所ノ雜合金屬
 ハ幾遍モ分析ヲ做スコトヲ要スルモノナレバ

之レニ注意セサル可ラサルナリ

貨幣ノ或ルモノハ直径ニ些少ノ改革ヲ加ヘタルニ因リ其外貌ハ大ヒニ見善クナリタリ而シテ銀貨ハ亦タ微シク其重量ヲ増シタリ現今ノ貨幣ノ種類ヲ記載スルハ至當ナル可キヲ以テ余ハ爰ニ左ノ表ヲ附加スルナリ

直徑 外國本位 英國イチ直徑 トネグレン自方

金貨

二十圓	千分九百	一インチ三七	五百拾四グレイン四一
拾圓	同	一インチ三	二百五七グレイン二

五圓	同	〇インチ八七	百二十八グレイン六
貳圓	同	〇インチ六九	五拾一グレイン四
壹圓	同	〇インチ五	二拾五グレイン七二

銀貨

壹圓	同	一インチ五	四百拾六グレイン
五拾錢	千分八百	一インチ二二	二百八十二グレイン
二拾錢	同	〇インチ九	八拾三グレイン二
拾錢	同	〇インチ七二	四拾一グレイン六
五錢	同	〇インチ五六	貳拾グレイン八

右貨幣ノ圖ハ又改革サレタリ則チ其裏面ニハ

大ヒナル日本字ヲ以テ其價值ヲ表シ其表面ニハ羅馬字ヲ入レタリ是レハ外國人ノタメニ甚ダ便利ナルコトニシテ銀貨ノ不足ヲ患フル支那ノ諸港及ヒ附近ノ英國藩屬地ニ於テ右貨幣ノ通用貨ト做サルハ一ヲ勸勵ス可キナリ

銅貨

夾雜物

英國イチチ直径

トイグイノ目方

貳錢	銅	二十八分	一イチ五二五	二百拾グイ
壹錢	銅	一分	一イチ一〇	百拾グイ
半錢	銅	一分	〇イチ八七	五拾五グイ

壹厘

亞鉛二分

〇イチ六

拾四グイ

羅馬文字并ニ數符ハ銅貨ノ表面ニモ亦入レタレタリ

大判小判貳分及ヒ貳朱ノ如キ舊金貨ハ最早通用セサルナリ壹分及ヒ壹朱ノ銀貨モ前同斷ナリ

然シナガラ舊銅貨ハ猶ホ通用スルナリ而シテ右貨幣ハ其日ノ相場ヲ以テ通用シ金銀圓ト比較サレタル一定ノ價值ヲ有セサルナリ而シテ新貨ト漸クニ地ヲ換ヘ通用ノ止ム迄テハ前文

ノ振合ヲ以テ通用ス可キナリ

以舊銅貨ハ鐵錢ノ拾ニ抵ルモノアリ拾六ニ

抵ルモノアリ二拾四ニ抵ルモノアリ百ニ抵ル

モノアリ諸テ以鉄錢百個ニ抵ル當百ハ一千八

百三十年ト一千八百四十三年トノ間ニ鑄立テ

ラレタルモノニシテ爾後天保ト名付ケラレタ

リ此名稱ニテ右銅貨ハ今尚ホ外國人ニ知ラル

、ナリ天保ハ其性合及ヒ重量ニ甚ク著シキ相

違アリ百ニ付キ銅ノ七拾七ヨリ八拾八迄テヲ

含メリ而シテ其夾雜物ハ錫ト鉛トナリ右銅貨

ノ或ルモノハ百ニ付キ鉛ノ八ヨリ拾二迄テヲ

含メリ而シテ其重量ハトロイ秤量ノ二百六拾

五グレインニ二五ヨリ三百七拾一グレイン九。

ニ迄テノ差違アルナリ

去ル十二月三十一日ニ於テ壹圓ハ百二拾四天

保ニ抵リタリキ然シナガラ時價ハ九拾六ヨリ

百三拾迄ノ差ヒアリタリ

貿易銀ハ外國人ノ間ニ通用スルナリ外國人ハ

香港上海銀行及ヒ東洋銀行ノ當地ニ在ル支店

ニ賬簿ヲ置キ而シテ算計ヲ掌ルニ以銀錢ヲ用

飛

七

ユルナリ

輸入及ヒ輸出ノ價值表ハ又以銀錢ヲ以テ畧記シ而シテ日本人トノ取引ニハ圓モ以銀錢モ取交セテ使用スルナリ

新ラシキ純粹ノ墨西哥弗ハ銀圓ノ一〇〇四三ニ抵レソ然シナカラ通常此地ニ通用スル所ノ弗ハ銀圓ト同價トシテ用ヒラルナリ

金圓ハ墨西哥弗ニ比較シタルトキ、去年間百ニ付キ一四分一ヨリ六四分三ニ及デ迄デノ差ノ減價ニテアリタリ

銀圓ハ一千八百七十三年間其鑄造ヲ引續キテナサバリシ而シテ其價ハ又百ニ付四分一ヨリ二分一ニ至ル迄デノ減價ニテアリタリ

金銀圓ハ未タ日本人ノ間ニ一般ニ通用セサルナリ其通用幣ハ金札及ヒ圓札ト稱スル所ノ紙幣ナリ

右兩種ノ紙幣ハ政府ノ發行スルモノナリ而シテ大蔵省於テモ或ハ國立銀行ニ於テモ金又銀ト引換ヘサルモノナリ此紙幣ニハ月日モナク又花押モナク而シテ其通用高ハ精細ニ知レサ

ルナリ

此紙幣ニハ歐羅巴ノ紙幣ノ如ク之ヲ金銀ト同位ニ置ク可キ利益ナシト虽ヘトモ日本人ハ之ヲ圓ト同價ニ通用シ為スナリ加之内地へ金子ヲ送ラントスルトキ之ヲ要スルガ如キハ時トシテ少許ノ溢價ヲ出サズルヲ得サルナリ

一千八百六十八年始メテ金札ノ發行サレタルトキ右金札ハ減價ニテ通用シタリ而シテ一時ハ百ニ付キ五拾ニ迄テ下落シタリ然シナカラ政府ハ其後金銀ト同價ニ之ヲ通用セシムル意

ヲ達スルヲ得タリ

日本紙ノ上ニ印刷シタル金札ハ左ノ名稱ノモノナリ

拾兩五兩及ヒ壹兩(兩ハ即圓ナリ)貳分壹分貳朱及ヒ壹朱ニシテ貳分ハ圓ノ五拾錢壹分ハ圓ノ貳拾五錢貳朱ハ圓ノ拾貳錢二分一壹朱ハ圓ノ六錢四分一ニ當ルナリ

圓札ハ外國紙ニ印刷シテ日本字並ニ羅馬字ノ附キタルモノニシテ千圓五百圓貳百圓百圓五拾圓貳拾五圓拾圓五圓貳圓及ヒ壹圓ニ五拾錢

貳拾錢及七拾錢アリ

日本銀行(三井)ハ拾圓五圓及七壹圓ノ紙幣ヲ發行セリ以紙幣ハ持券ニテ其役所ニ至ルトキハ金圓ト引換ユルナリ

此地ノ貿易ハ香港上海銀行會社ニテ持券次第正金ト引換ル百弗拾弗及七五弗(墨西哥弗ナリ)ノ紙幣ヲ發行セルヲ以テ大ニ庇蔭ヲ被レリ何トナレハ之レニ因テ墨西哥弗ノ檢査ノタメ空ニ費ヤミタル時ト勞トラ省キ且ツ之レニ因テ是迄テ支那ノ換錢者ノ獨リ擅マ、ニシタル權勢

大ニ減却シタレハナリ

(電信)ハ昨年開長崎ト開カレタリ當港ハ一千八百七十二年来既ニ横濱トハ通信シタリ長崎ハグレート、ノルゼルン、テレグラオカムパ子一信

會社ノ結末ノステーションニシテ此ステーションニハ歐羅巴ノ電信線ト連接スルモノトス日本ノ電信機ハ外國人ニ輔佐サレタル日本官吏ノ管理スルモノニシテ政府ノ所有物タリ兵庫ノ北方ニ在ル電線ハ大坂京都彦根名護屋豊橋静岡沼津及ヒ横濱ヲ經テ東京(江戸)ニ達シ而シテ

南方ニ在ル電線ハ内海ノ北ヲ経テ下關ニ至リ
夫レヨリ瀬戸ヲ超ヘテ九州小倉ニ至リ而シテ
福岡及ヒ佐賀ヲ經過シ最後ニ長崎ニ達セリ
日本ノ電信術ハ之レニ關係セル日本官人ノ此
職務ニ熟達セサルヲ以テ未思込ミタル程ノ望
ニ合ハサルナリ而シテ長崎及ヒ横濱ノ間ノ通
信ハ絶ヘス阻滯セリ

グレートノルゼルニニテ歐羅巴ニ電信ヲ傳ヘ
ントスルトキハ長崎ニ在ル或人ニ請托セサル
ヲ得サルナリ何トナレハ日本ノ電信寮ニテハ

此事務ヲ引受ケサレバナリ

日本驛通寮日本政府ハ通國ノ重要ナル場所ト
正ニキ郵便ヲ開キタリ而シテ右郵便ノ運送ハ
步行ノ使人ヲシテ之ヲ掌ラシムルナリ以使人
ハ當港ヨリ横濱ニ至ルニ四日ヲ費ヤシ而シテ
長崎ニ至ルニ五日ヲ費ヤスナリ然リト虽ハ此
此港ハ日本國所有ノ蒸氣船ニテ屢々書信ヲ
傳致スルナリ近來通國郵便運賃ヲ一定シ日本
ノ二匁ノ重量ニ付キ貳錢ト取極メタリ又歐羅
巴法ノ郵便切手ヲ採用シタリ以切手ハ其價壹

錢貳錢四錢五錢拾錢貳拾錢貳拾五錢五拾錢及
ヒ壹圓ノモノナリ

鐵道大阪ト内地トノ間ニ善キ陸地交通ノ法ヲ
立テニコトヲ要用トスルノ事情ハ急ニ増加セ
リト虽ヘトモ日本官吏ハ馬車道ヲ造ルハ又ハ
或ル方法ヲ以テ此兩所ノ中間ニ在ル卑陋ノ道
改正スルコトヲ決シテ承引セナリキ然シナガ
ラ鐵道建築方ハ緩慢ナリニコトヲ思考スルト
キハ日本官吏ヲ説得シテ道路ノ車ニ付キ或ル
處置ヲ施サセシメントノ望ニハ余ノ考フル所

ニテハ全ク絶へ果タリ右鐵道ハ去ル五月十一
日ニ落成シテ開業サレタリ
諸テ右ノ二拾ニマイルノ長サアル小鐵道ニハ
六ヶ所ノステーションアリ則チ神戸三宮住吉
西宮神崎及ヒ大阪ノステーションナリ此鐵道
ノ行旅ハ午前七時ヨリ午後五時三十分ニ至ル
マテ一時半毎ニ出車シ一時有餘ノ時間ヲ以テ
做シ得ルナリ蒸氣車ハ兩端ノステーションヨ
リ同時ニ發出シ而シテ中途ノ二重鐵道ニテ互
ヒニ行違フナリ

兵庫^テルミユス即チ川崎ステーションハ港ノ
 西側ニ在リ而シテ三筋ノ鐵道及ヒ長九^サ三百尺
 ノ上^リ場ヲ有セリ以ステーションニハ又長四
 百五十尺濶四拾尺ナル埠頭ヲ備ヘタリ以所ニ
 於テ吃水ニ拾尺ノ航海船ハ其貨物ヲ船積ニシ
 又陸揚ケスルヲ得ルナリ
 三宮ハ此港ニ在ル外國居留地^ノ後邊ニ在ル小
 キステーションナリ
 大阪ニ於テ建築サレタル煉火石ノステーションヨ
 ンハ是迄テ日本ニ於テ建築サルタル内ニテ最

モ莊麗ナルモノナリトス以ステーションハ亦
 ヲ鐵道ニテ日本造幣寮ト連接シ且外國居留地
 ニ對シタル河岸ト連接スルナリ以處ノ鐵道ハ
 若シ開カルトキハ大ヒニ便利ナル可ニ何ト
 ナレハ右大阪ステーションハ同府ノ現今ノ互
 市場ト甚タ隔絶シタレハナリ
 直角ニ終テノ河流ヲ横過シタル此鐵道ノ傾斜
 ハ何レノ處ニ於テモ百分ノ一ニ過クルコトア
 ラサルナリ是レガタメニ河流ノ底ニ三個ノ隧
 道ヲ穿テ數多ノ橋梁ヲ架シ且ツ此邊ノ地ノ耕

作ニ必要ナル人造ノ灌溉ヲ便利ニセシガタメ
 ニ衆多ノ陰渠ヲ造リタリ此三個ノ隧道ノ合計
 ノ長サハ七百五拾フーフトナリ而シテ此橋梁及
 ヒ陰渠ノ數ハ二百〇八ニ及ベリ其外武庫河ニ
 架シタル長サ一千百九拾フーフトノ大橋アリ
 此鐵道ヲ京都迄テ引續ガシメシタメノ事業ハ
 取掛ラレタリ以鐵道ハ琵琶湖ニ沿フテ敦賀ニ
 及フ可キ沙汰アリ斯クアリタルトキハ兵庫大
 阪ノ貿易ハ大ニ繁昌ス可キナリ
 泊船所神戸及ヒ兵庫ノ兩港神戸ハ外國諸船ノ

碇泊ニ供シ而シテ兵庫ハ日本人所有ノ船舶ノ
 碇泊スルタメニ用ヒラレタリハ淡河ヨリ流出
 シタル重キ花崗石沙ノ充塞セシコトニテ其河
 口ニ堆積シタル狭キ海嘴ニテ區分セラレ、ナ
 リ此兩港ハ大阪灣ノ北西ニ在リ
 神戸港ノ方面積ハ凡ソ四方哩アリ此港ハ南東ノ
 方ニ開キタリ其最モ深キ處ハ五フーゾム半ア
 リ而シテ右深サハ凡ソ二百ヤールドノ距離ノ間
 漸々海岸ニ近寄ルニ從テ減却スルナリ
 此港ノ入口ハ安全ニシテ無難ナリ而シテ泥塗

ノ底ナルヲ以テ此泊船所ハ卓越ナルモノト思
考セラル、ナリ此港ノ長サノ三分一丈ケニ延
張シタル石壁ヲ神戸ト呼做セル日本市街ト外
國居留地ノ前面ニ築造シタリ此港ニハ小船并
ニ小キ河蒸氣船ヲ修造スルタメニ二個ノ小キ
造船所ヲ設ケタリ而シテ此造船所ノ前ニ税關
ヲ築造シタリ

兵庫ノ港ハ大抵神戸ノ港ト同様ナリ然シテカ
ラ流行ノ西風ヲ受クル一ハ神戸ヨリモ稍少ナ
シトス南風并ニ東南風ハ甚タ烈シキトキハ時

トシテハ此兩港ニ在ル船舶ノ交通ヲ妨クルナ

リ
外國人ニハ大阪灣ノ名称ニテ知ラレタル和泉
海ノ方面積ハ凡ソ四百十八方哩ナルナリ和泉海
峽ノ深サハ凡ソ二十八フーゾムアリ而シテ此灣
ノ他所ニ於テ其平均ノ深サハ十フーゾムアリ
ト云ハル、ナリ

神戸ニ於テ満潮ハ海峽ヨリモ遅キコト一時ナ
リ満潮ト干潮トノ差ハ稀レニ六フーフトヨリ多
シ而シテ通例ハ四フーフトヨリ少ナシ

神戸及ヒ兵庫ノ両港ハ高キ陸地ニテ取園ニタ
ルヲ以テ其潮信ハ甚タ不規則ナリ而シテ重モ
ニ流行風ニ關係スルナリ

毎日日曜日及ヒ祭日ハ之ヲ除ク西税關ノ近傍
ニ居附ケタル大砲ヲ正午ニ放登シ以テ平時ヲ

報知スルナリ

船ノ需要品ハ他ノ開港場ヨリモ高價ナリ

牛肉 一ポンドニ付キ拾錢

麵包 一ポンドニ付キ九錢

水 一噸ニ付キ一ドルラル

引水者ハ政府ニテ命ゼサルナリ而シテ引水者
ハ下文ノ割合ニ從ヒ引水料ヲ請取ル可キ旨ヲ
約定シタリ其割合ハ不相當ノモノニハアラサ
ルナリ

紀伊海峡ヨリ神戸迄テ 吃水一尺ニ付キ三弗

紀伊海峡ヨリ大坂迄テ 吃水一尺ニ付キ四弗

神戸ヨリ大坂迄テ 吃水一尺ニ付キ一弗

大坂或ハ神戸(兵庫ヨリ)

内海ヲ經テ長崎マテ 吃水一尺ニ付キ六弗

大坂或ハ神戸ヨリ横濱

迄テ

吃水一尺ニ付キ六弗

當港及ヒ大阪ニ於テ外國居留人ノ斷ヘズ増益セシ趣ヲ示メセル第六ノ報文ハ閣下ノ注意熟覽セニテ余ハ未文ニ於テ期願スルナリ

專ラ大阪ニ關係シタル事件ニ付キ同府ニ在留セル副領事アンスレー氏ヨリ申越シタル書信アリ余ハ今之ヲ左ニ附加スルナリ恐惶謹言

アベルエー、シュ、グヴェル 花押

英國皇帝陛下特派公使等々等

シル、ハーラー、パークス 閣下

○大坂事情

副領事アンスレー氏書信

農業新作ノ米ハ其分量ノ少ナキ而已ナラス其品質モ宜シカラサルナリ之レニ依テ米價ハ引續キ高價ナル可ク且ツ外國人ノ米ヲ輸出スルコトモ大ヒニ阻碍ヲ被ル可シ

大坂ノ周圍ニ在ル廣野ハ盛大ニ耕作サレタリ其土地ヲ縱横ニ貫テ流ル、所ノ多數ノ川河ハ米、綿、小麥、菜種、豆等ノ急ニ成長スルコトヲ大ヒニ助クルナリ蠟樹ハ亦タ一般ニ河々ノ岸ニ植

付ケラレタリ

人口及ヒ**工藝**大坂ノ人口ハ一千八百七十二年
ニ做サレタル人口調ニ拠レハ五十三萬。八百
八十五人ト記ルサレタリ大坂ノ人口ハ亦タ数
多ノ不定ナル人口アルナリ大坂ニハ一千三百
八十個所ノ佛寺并ニ二千四百十三箇所ノ神祠
アリ大坂ノ橋々ハ其数一千二百五十一箇アリ
ト云ヘリ而シテ之ヲ修繕スルタメ毎年莫大ノ
金額ヲ費ヤスナリ大坂ニ巨大ナル造兵所アリ
同処ニテ外國ノ制式ニ倣ヒ各種ノ銃砲ヲ鑄リ、

砲車及ヒ其附屬品ヲ造リ馬鞍馬勒馬具及ヒ其
他各種ノ軍器ヲ製スルナリ此造兵所ノ工事ハ
或ル外國人ノ助ケヲ受クルト無ク日本職人ノ
營作セルモノナレハ日本政府ノタメ甚稱譽ス
可キモノナリ

蒸氣仕掛ノ製紙車ヲ大阪府中ニ造ラントテ今
其造築ニ取掛リタリ右ハ若シ落成シタルトキ
ハ外國人ノ監督ヲ受ケテ工業ヲ始ム可シ此車
ヲ用ユルトキハ爛布或ハ樹皮或ハ混和シタル
爛布或ハ樹皮又ハ混和シタル稿及ヒ樹皮ニテ

毎日少クトモ紙ノ一噸ヲ製出シ得可シ而シテ
其紙ノ質ハ精粗厚薄好ニ次第ノモノタル可キ
ナリ

外國機械ノ諸品ヲ大改ニ輸入シタルガ其中ニ
テ最モ著明ナルモノハ左ノ如シ

蒸氣力又ハ水カヲ以テ動カス紡績機械アリ

家用ニ供スル小キ亞墨利加製ノ手ニテ取扱フ

紡績機械モ輸入サレタリ右紡績器械ハ一日ニ

絲ノ二十五斤ヲ紡キ得可シ現今日本ニテ用ユ

ル所ノ木ト竹トヲ以テ製シタル紡績機械ハ一

日ニ僅カ一斤半程ヲ紡キ得ルモノナリ

莫大小製造機械此ノ有用ナル機械ハ六百八十

個程アリテ工業ヲ做スナリ此機械ニテ下襦視

衣靴襪手套等ヲ製造シ且又絹ノカルヂガシ、ジ

ヤツケットヲ製造セリ

靴并ニ長靴ヲ製造スル機械此精巧ナル機械ハ

一日ニ長靴及ヒ靴ノ五十對ヲ製出シ得ルナリ

然レナガラ右靴類ハ機械ヲ離レタル後仕上ケ

ノタメニ少シク手工ヲ要スルナリ此機械ニテ

製造シタル靴類ハ甚タ賤價ニ賣捌カルナリ

然シナガラ丈夫向キノ品ヲ好ムトキハ稱ス可
キモノニアラザルナリ

織物機械モ大改ニ輸入サレタリ然シナガラ未
ダ工業ニ取掛ルノ手順ニナラザルナリ然シナ
カラ此機械ニテ製造ス可キ品物ハ本場ニテ造
ラレタルトキヨリモ低價ニテ賣捌カル可キコ
ト、算定サル、ナリ

金中ヲ製造スル蒸氣機械ハ大改ノ近隣ナル堺
ニ於テ盛ニニ工事ヲ做セリ

外國人ノ監督ヲ受ケテ工業ヲ做セル蒸氣仕掛

ノ巨大ナル採油機械ハ菜種ニテ造ル油ノ莫大
ナル分量ヲ製出スルナリ

大掛リノ釀酒房アリ工事ヲ做セリ右釀酒房ニ
テハ無墨利加ヨリ取寄セル所ノ忽布ホツフナ草ナクサハ

以テ佳品ノ麥酒ヲ釀セリ此飲料ハ日本人ノ多
分ニ用ユルモノナリ

裁縫舗ハ大坂府中ニ數多散在セリ而シテ外國
風ヲ模擬シタル諸色ノ衣服ヲ製作シ舗頭ニ之
ヲ擺列シ賣却セリ然シナガラ大改ニテ造リタ
ル衣服ノ制式ヲ熟考スルニ日本ノ裁縫匠ハ未

夕外國人ノ截法ヲ會得セザル所アルナリ
此地ニテハ堅固ナル革ノ旅用箱并ニ旅用袋ヲ
盛ニ製造セリ而シテ此品物ハ善且美ニ仕上
ケラルナリ

玻璃製造モ營業サルナリ然シテガテ此業ニ
ハ進歩少ナシ石炭油ヲ用ユルラムプヲ製造シ
甚タ中平ナル價ニテ之ヲ賣出セリ此等ノ事情
アリ且石炭油モ多分ニ大阪ニ來リテ其價甚タ
廉ナレバ是迄テ日本人ノ家屋ニテ用ヒタル紙
製ノ提燈及ヒ行燈モ程ナク廢止セラレトナ

ル可シ

公用ノ造築日本政府ハ外國居留地ニ對セル水
津川ノ向岸ニ府廳トスル目的ニテ巨大ノ屋宇
ヲ建築シタリ此建物ノ内ニハ税関ヲ除キ地方
管轄ニ屬セル總テノ局ヲ設置シタリ右ハ儼然
タル外貌ノ建物ニシテ外國ノ制式ニ倣ヒテ造
築サレタリ其前面ニハ長キ圓柱アリ而シテ其
屋背ハ半球形ナリ然シテガテ日本帝國造幣寮
ノ監督ナルマジヨルキンドル氏カ此建物ノタ
メニ供シタル原圖并ニ同氏ノ通知セシ貴重ナ

ル教誨ノ十分精細ニ遵守採用セザリシコハ歎
 ス可キナリ余カ聞及ヒタル所ニ據レハ日本
 人ハ外國人ノ助ケヲ受ケズシテ此屋宇ヲ建築
 セント欲シタルヨリ圓柱窓牖弓形等ノ石材ヲ
 使用ス可キ処ニ木材ヲ用ヒタルナリナドアリテ
 近時ノ建築法ノ諸道理ニ基カザリシ由ナリ
 市區ニ関シタル建物類ハ殆ンド落成シタリ右
 建物ハ巡查屯所ノ附キタル市區會館水龍車ヲ
 入置クタメノ完固ナル建屋及ヒ四個ノ居室ヲ
 有シ且蓋ヒタル圍所ノ附キタル牢獄ナリ

大坂ノ諸部ヲ貫テ流ルノ河々ハ上ニ外國人ノ
 監督ヲ以テ數個ノ鐵橋ヲ架シタリ又中央ニテ
 開閉ス可キ様ニ造リタル鐵ト木材トノ橋ヲ
 架シテ外國居留地ト安治河ノ兩岸トヲ連接シ
 タリ又府廳ニ達スルタメ木津川ノ上ニ一個ノ
 増橋ヲ架ス可キナリモ建言サレタリ
 此狭小ナル居留地ハ絶ヘス多クノ燈明ヲ以テ
 暗ヲ照シ且百事齊整セリ兩側ニ植込ミタル樹
 木ハ夏ノ間清陰ヲ供セリ而シテ又居留地ノ中
 ニ建増サレタル屋宇倉庫アルナリ

此居留地ニ達スル所ノ河流ノ航行ヲ便利ニセ
ンガタメ昨年間施シタル作業ハ唯々折々或ル
浚水機ヲ用ヒタルトト数多ノ小キ沙灘船ヲ用
ヒタルトト而已此沙灘船ハ手ニテ河口ヲ浚上
グルニ甚タ有用ナルモノトス然レナガラ河蒸
氣船ノ自在ニ通航ス可キ程ニ十分ナル深サヲ
設クルタメニ右等ノ作業ヲ須ラク絶ヘス施行
ス可キナリ

或ル外國ノ測量師等ハ安沼河ヲ京都迄テ測量
セリ是レハ此河ヲ深フシテ京都ニ至ル迄テノ
間淺キ吃水ノ蒸氣船ヲ通航セシメ且又安沼河
ト琵琶湖トヲ連接スル一深河ヲ開カントノ見
込ナリ此目論見若シ実地ニ行ハルトキハ日
本ノ西海岸并ニ通商上ニ緊要ナル數多ノ富饒
ナル地方ヲシテ容易ニ大坂及ヒ神戸ト交通セ
シムルニ至ルベシ

大阪ニハ小學校七十二中學校一大學校一アリ
之レニ出席ス生徒殆ント一萬人アリ大學校ト
中學校トハ英國教師ノ監督ヲ受クルナリ大阪
ニハ亦外國女教師ノ主任セル女學校一アリ

大坂ノ陣營ニハ通常ハ大隊ノ歩兵(六百四十名ノ兵卒ト百名ノ士官トニテ一大隊ヲ編制セシモノナリ)ヲ備ヘ置キ又二中隊ノ砲兵ヲ備ヘ置ケリ教列細綿多ノ騎兵モ時トシテ此地ニ置カ
ル、一アリ

亜墨利加傳教使ノ會社ニ屬セル美ナル小礼拝堂アリ是ニ於テ毎日日本語ノ神拜ヲ舉行セルニ日本人ハ善ク之レニ出席セリ而シテ日本人ハ通常ノ祈禱文ヨリ日本語ニ翻譯シタルモノニテ應答ヲ做スナリ

現今此地ニ立寄レル舩隻ハ海岸ヨリ頗ル掛離ナレ且甚タ露出シタル場所ニ於テ碇泊セザルヲ得ザルナリ此ノ如キ不都合ノ事情アル上又居留地ヨリ海ニ至ル迄ニハ河ノ距離ノ長キヲ以テ貨物ヲ舩ニテ運送スルハ至テ難ク而シテ又僅カニテモ天氣ノ悪シキ時ハ水勢ノ平穩ナラザルヲ以テ河ヲ渡ルニ危難アレバ脚舩ヲ送出ス一行ハレザルナリ斯クテ貨物ヲ規則時限ノ後ニ舩積ス可キ免許ヲ受ケントスルトモ稅関官吏ノ収取セル手数料ハ甚タ過當ナルガ

故ニ此手敷料ヲ拂ヒテ免許ヲ受クル帆前船ハ
 希レナリ而シテ帆前船ハ大抵己ムイヲ得ス惜
 ム可キ時間ヲ費ヤシ船積ノ叶フ迄テ天氣ノ定
 マルヲ俟設クルナリ之レカタメニ此地ノ港ニ
 来ル船隻ハ希少ナリ何トナレバ商人等ハ其貨
 物ヲ日本船ニテ兵庫迄テ送り而シテ同港ヨリ
 之ヲ積込ハ方ヲ便トスレバナリ
 余カ聞知スル所ニ拠レハ日本官吏ハ居留地ニ
 出入セル日本人ノ諸貨物ニ百ニ付キ一ノ関門
 税ヲ征セリ蓋シ此税ハ正サシク外國人ノ自由

交易并ニ其他利益ヲ妨碍スルモノナレハ此法
 ノ廢止セラレシトハ甚タ望マシキ事ナリ

○兵庫及ヒ大坂外國輸出品ノ撮要
 一千八百七十三年

生絲	二百五十二斤、二九	十萬四千八百二十五弗
絹絲	五百五十六斤、三六	
蠶卵	千二百七十二枚	百弗
茶	三百三十九石、四	七十九万三千四百五十四弗
銅	一百九十八擔、三九	四十九万〇二千五百弗

烟州	八千九百九十八擔	六万零五百七十九弗
小蠟	一万四千九百零七擔	二万五千四百九十四弗
樟腦	三千一百五十四擔	四万九千九百六十一弗
乾魚	一万。九百十八擔	十五万二千二百二十四弗
石炭	六百五十九噸	一万三千二百八十八弗
米	十五万零零三三擔	五十一万五千五百七十七弗
漆器	二百五十一箱	二万九千四百七十六弗
磁器	一千三百零二箱	三万四千二百八十七弗
昆布	六万五千二百零七擔	十三万五千九百四十二弗
小麥	二万三千六百三十六擔	五万。九百四十二弗

雜貨

通計 三百三十二万二千二百八十八弗也
 六十五万七千。五十弗
 年内輸出貨幣高六百九十二万七千四百三十九弗

○兵庫及ヒ大坂外國輸入品ノ撮要

木綿織物	一千八百七十三年	二百四十三万。五百六十八弗
毛織物		一百零六万零二百八十五弗
金類		十六万六千三百。五弗
長靴及ヒ靴		一万九千六百三十弗

麥酒葡萄酒及燒酒

七万六千九百九十四弗

敷物

一万四千四百五十弗

掛時計

二万五千二百四十七弗

葯種

九万三千九百四十六弗

硝子器

四万。七百五十七弗

小間物

四万五千九百十六弗

柔皮

三万。二十四弗

藥劑

三万三千五百一十一弗

石腦油

九万三千九百七十弗

文具

二万二千九百八十二弗

蝙蝠傘

九万一千四百四十四弗

硝子板

二万六千九百六十弗

雜貨(外國品)

四万三千七百七十九弗

全上(日本政府)

二十五万六千九百六十二弗

白砂糖 二万。七百三十三擔

十四万七千五百二十八弗

赤砂糖 二万九千八百三十三擔

九万五千四百二十七弗

冰砂糖 二千五百七十三擔

二万三千九百十八弗

豆油 九千四百。七擔

四万六千二百七十三弗

他ノ東洋產物

二十二万五千八百三十九弗

通計

六百三十一万。二百一十一弗也

年内輸入貨幣高 三百三十四万九千九百九十九

。一千八百七十三年十二月三十一日

至ル迄テ其年間兵庫及ヒ大坂ノ税関

ニ於テ収取シタル税銀ノ数文

兵庫輸入品ヨリ

分類税 十八万四千九百五十五

従價税 四万五千二百八十五

右通計 二十三万。百九十

兵庫輸出品ヨリ

分類税 四万八千六百四十五

従價税 二万八千七百七十二

右通計 七万七千四百一十七

右兵庫輸入輸出税通計三万。七百六十九千九百五十七

大坂輸入品ヨリ

分類税 四千九百六十二

従價税 五千八百。一

右通計 一万。七百六十三

大坂輸出品ヨリ

分類税 二万一千六百五十三

從價稅 一万二千四百七十六弗

右通計 三万四千百三十弗

右大坂輸入輸出稅通計 四万四千八百九十三弗

右兵庫大坂稅銀大通計 三万五千五百。三弗

○兵庫及大坂外國居留人ノ數文

兵庫

大坂

國名	天保元年	天保二年	天保三年	天保四年	天保五年	天保六年	天保七年	天保八年	天保九年	天保十年
英吉利人	六十四	百一	百五	百九	二百	二百八	二百二	二百六	三百	三百四
日耳曼人	三十八	四十	四一	四二	四三	四四	四五	四六	四七	四八

國名	天保元年	天保二年	天保三年	天保四年	天保五年	天保六年	天保七年	天保八年	天保九年	天保十年
亞美理駕人	三十八	三十八	三十九	四一	四二	四三	四四	四五	四六	四七
佛蘭西人	十七	二十七	十九	二十八	三十一	三十一	三十一	三十一	三十一	三十一
荷蘭人	十四	二十六	二十六	二十六	二十六	二十六	二十六	二十六	二十六	二十六
葡萄牙人	七	五	六	六	六	六	六	六	六	六
是班牙人	〃	六	七	七	七	七	七	七	七	七
奧地利人	五	十	九	十	九	〃	〃	〃	〃	〃
暹馬人	〃	二	六	九	十	〃	〃	〃	〃	〃
瑞士人	〃	〃	三	五	五	〃	〃	〃	〃	〃
瑞典人	〃	四	四	四	八	〃	〃	〃	〃	〃
以太利人	二	一	三	一	一	〃	〃	〃	〃	〃

布哇人
俄羅斯人
通計

百八十五	二百七十一	二百九十一	三百三十五	六百四	六百三	七十三	八十一	百二十九
------	-------	-------	-------	-----	-----	-----	-----	------

○千八百七十三年間兵庫港之於

外國高船出入ノ報文

國名
英吉利船

艘數	噸數	艘數	噸數
載貨船 輕荷船 通計	載貨船 輕荷船 通計	載貨船 輕荷船 通計	載貨船 輕荷船 通計
六十九	九百五十九	六十五	七百七十九
六十八	九百六十四	六十七	七百八十九

亞墨利加船
今上飛脚船
日耳曼船
布哇船
荷蘭船
瑞典船
挪耳回船
佛蘭西船
伯耳教船
支那船

六	百	九	三	二	一	一	七
二	十	十九	三	一	一	三	一
八	百	十九	三	三	三	三	一
二千三百	七千六百	三千四百	七千三百	三千三百	三千三百	三千三百	三千三百
六十七	六百六	七十七	六百六	六百六	六百六	六百六	六百六
八	百	十七	三	三	三	三	一
八	百	十九	三	三	三	三	一
三千六百	七千六百	三千四百	七千三百	三千三百	三千三百	三千三百	三千三百
六十七	六百六	七十七	六百六	六百六	六百六	六百六	六百六

飛脚局

大

俄羅斯船	一	一	七萬五千九百五十五	一	一	七萬五千九百五十五
通計	百九十六	三十五	百五十五	百九十六	三十五	百五十五

○千八百七十三年間大坂港之於
外國商船出入之數文

國名	艘數	噸數	艘數	噸數
俄羅斯船	一	七萬五千九百五十五	一	七萬五千九百五十五
英吉利船	二七	二千八百	二七	二千八百
日耳曼船	八	八	八	八
通計	三十四	八萬三千七百五十五	三十四	八萬三千七百五十五

亞墨利加船	一	一	百	百
佛蘭西船	二	二	二千	二千
荷蘭船	一	一	六萬九千九百五	六萬九千九百五
俄羅斯船	一	一	七萬	七萬
通計	五	八萬三千七百五十五	五	八萬三千七百五十五

飛
大
歲
自

番
言
后

大
雅
省

